

代官山MEDICAL 卒業生の勉強法 ①



●丹治芳明君による数学の学習の進め方

東京慈恵会医科大学 3年 丹治芳明君

Mathematics

1. 4月の数学の学力状況

高校3年生のとき、自分は数学を得意な科目と思っていたが、実際の入試問題には歯が立たず、得点源にならなかった。浪人生となり、自分の数学の学力について見つめ直したところ、基礎的な問題を解ききることができる一方で、入試のような難関な問題になると、解答するプロセスが思いつかないという問題点が挙げられた。たしかに、現役生ときの数学に対する取り組み方は、解くプロセスがわからないとすぐに答えを見てしまい、プロセスがわかったうえで再び解き始めるというものだった。よって、このような私の欠点を改善するために、難しい問題をどのように簡単な問題に結び付けるかを身につけることを意識して勉強することを目標とした。

2. 代官山MEDICALの授業に対する取り組み方

1.の最後で述べたような目標を立てた自分にとって、模範解答の載っていない代官山MEDICALのテキストはすぐに答えを見ることができないため、自分にとても適していたように思える。宿題については、特に予習に力を入れていた。宿題として出された予習の問題を、入試問題に見たててじっくり考え、何としてでも完答しようと真剣に取り組んだ。模範解答が載っていないため、より一生懸命取り組むことができた。そして、授業で先生が示した模範解答と違う解き方だった場合は、ノートを見てもらい、合っているかを添削していただき、不正解の場合はどこで間違えたのかを添削していただいた。授業の予習に一生懸命取り組むと、自分の解答が合っているのが気になり、授業が濃密に感じられた。その結果、復習の時間がとても少なくなったため、他のことを勉強する時間が大幅に増えた。

3. 学習に使った教材

①代官山MEDICALのテキスト、先生方のプリント

テキストは医学部受験に特化した問題により構成されているため、医学部の入試に独特なものを多く演習でき、医学部の入試問題に馴れ、完答する力を養うことができた。また、先生方のプリントにより、学力を補強することが出来た。授業用テキストに載っている問題を全て理解することは第一に必要なことであるが、その他にもより多くの問題を演習したいと思っていたため、授業の予習・復習と並行していくつかの市販の教材も用いて勉強した。

②青チャートⅠ A、Ⅱ B、Ⅲ C (数研出版)

漏れなく基礎を固め、苦手分野をなくすために、青チャートⅠ A、Ⅱ B、Ⅲ Cを7月中旬くらいまでに解いた。問題数が多く、様々な分野の典系問題があるため、苦手な分野の問題も数多くとくことが出来た。

③大学への数学 1対1対応の演習(東京出版)

入試問題の中で基礎とされる問題を解くことが出来るようになるために、大学への数学 1対1対応の演習を使ってより難易度の高い問題を勉強した。入試問題を解くうえで知らなければならない問題が載っているため、医学部の入試問題を解く土台作りをすることが出来た。

④大学への数学 スタンダード演習(東京出版)

苦手な分野の一般大学の入試問題を解くことで、苦手と思うものをなくすために用いた。具体的に、座標平面・数列・確率・積分の応用などである。

⑤赤本(教学社)

授業で取り扱った問題の類題を解くことや、難問を自分の知っている知識を利用して解く練習をするために用いた。具体的に、東京慈恵会医科大学・日本医科大学・順天堂大学・筑波大学・岡山大学などの入試問題を解いた。

4. まとめ

数学の入試問題では全く同じ問題が出題されることはほぼない。よって、以上までに述べたように、解答のプロセスを導き出す能力を養うことが大切である。どんなに多くの問題を演習しても、答えを覚えるような学習は無意味であり、いかに自分の知っている知識の次元まで落とせるかが重要であるため、導出過程を導く練習を数多く行うことが大切である。また、入試本番において、難問を解くことは他の受験者に差をつけるために必要であるが、一方で、代官山MEDICALのテキストにあるような、医学部入試における典型～やや難とされる問題を安定して解く力も絶対に必要である。